

## 第1回松本城・城下町写真エッセーコンテスト

優秀賞 「世界遺産の松本城へ」 宮内 栄一



### 世界遺産の松本城へ

宮内 栄一

鳥になって、空高く舞い上がり、信州を俯瞰して見ると、まず雄大な山脈が見える事だろう。川や湖、平野とほとんどが森や緑に覆われている。澄んだ空気、水、そして光に溢れた、自然豊かな美しい景観がどこまでも広がっている。

県のほぼ中央部に位置する松本市は経済、文化、歴史の拠点としての役割を担ってきた。

北アルプスを背に白壁と黒下見板とのコントラストに映え、黒韋威の鎧に身を固めた古武士の風格漂う松本城は美事である。

城を守る石垣は、堀の水面から、いきなり急勾配に立ち上がっている。その石一つにしても、一キトンにも及ぶ天守を支える為、安易な組み方は決して許されなかっただろう。

「氷山の一角」とよく言われるが、その水面下には我々の想像もつかない工夫があるに違いない。

又、柱や梁も、無骨に見える太い材がふんだんに使われ、手斧の「ハツリ痕」には、匠の力強い見事な技に思わず手を触れてみたくなる。

マクロの目、ミクロの目で城を見る時、

昔人の血の滲む様な努力の跡が形となり、創意、工夫、そして知恵の結晶が見えない所で生きている。

日本の心のシンボルとして、いつまでも継いでいてほしい。